

カルメル

霊性センターニュース

2022年5月 386号

教皇フランシスコの「マリアの汚れなきみ心への奉献の祈り」(2022年3月25日)から

母マリアよ、わたしたちの願いを聞き入れてください。
海の星であるマリアよ、戦争の嵐の中でわたしたちを難破させないでください。
新しい契約の櫃であるマリアよ、和解への計画と歩みを奮い立たせてください。
「天の大地」¹であるマリアよ、神の調和を世界にもたらしてください。
憎しみを消し、復讐をしずめ、ゆるしを教えてください。
わたしたちを戦争から解放し、核の脅威から世界を守ってください。
ロザリオの元后、祈り愛することが必要であることを呼び覚ましてください。
人類家族の元后、人々にきょうだい愛の道を示してください。
平和の元后、世界に平和をお与えください。

創造主への祈り

人類の父である主よ、
あなたはお造りになったすべての人に、分け隔てなく尊厳をお与えになりました。
わたしたちのここに、兄弟姉妹への愛を目覚めさせてください。
再会、対話、正義、平和の夢を、呼び覚ましてください。
飢えも貧困もなく、暴力も戦争もない、より健全な社会とより尊厳ある世界を築くために、わたしたちを奮い立たせてください。
あなたが一人ひとりのうちに蒔かれたよいもの、美しいものに気づき、
一致を深め、共通の課題に取り組み、希望を共有してきずなを強めるために、
わたしたちの心が地上のあらゆる民族と国々に開かれますように。アーメン。
(教皇フランシスコ 回勅『兄弟の皆さん』 第八章 世界の兄弟愛のために働く宗教)



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	29
東京	30
京都	35
キリスト教放送局 FEBC のご案内	38
諸所の企画案内	39
郵送お申込みのご案内	44
あとがき	45

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三巻

第四十八章 永遠の日と、この世の息苦しさ

3 貧しいさすらい人

このような不幸は、いつ終わるのでしょうか？私はみじめな罪の奴隷からいつ、解放放たれるのでしょうか？主よ、いつになったら私は、あなただけを思い、あなただけに満足できるのでしょうか？いつになったら、何の束縛もなく真の自由と、精神と体からの解放とを得られるのでしょうか？いつになったら、ゆるぎない平和、安全な平和、心と外部の平和、どこを向いても不動の平和を得られるのでしょうか？ああ、よきイエスよ、いつになったら私は、あなただけを仰ぎ見て、み国の光栄を眺め、あなたが私にとって、「すべてのすべて」(一コリント 15・28)となるのでしょうか？「世の初めから選ばれた人々のために、備えられたみ国に行くのは、いつでしょうか？」(マタイ 25・34)。毎日戦いがある不幸なこの敵地に、私は貧しい追放者としてさまよっています。

4 自分さえ重荷である

主よ、さすらい人の私を慰めてください。私の労苦を和らげてください。私の望みは、あなたを慕うことだけです！この世が与える慰めはすべて、私にとって重荷だからです。私は親しくあなたと交わりたいと思うのに、まだそこには至らないのです。私は天を眺めたいと思うけれども、地上の俗事と、まだ抑えきれない邪欲のために、この世に引かれがちです。私は心ではこの世のすべてを超えたいと思うけれども、肉体は不本意ながら、それらの事柄に私を服従させるのです。こうして不幸な私は、霊と肉とに双方から引かれ、「自分自身の重荷となっていてます」(ヨブ 7・20)。精神は上に、肉体は下に向かおうとするからです。

5 神の助け

天のことを黙想していて、突然、その祈る心に、さまざまな誘惑が襲いかかるのを知るとき、わたしはどんなに苦しむことでしょう！私の神よ、「私から遠ざからないでください」(詩編 71・12)。また「怒って、しもべを見捨てることなく」(詩編 27・9)、あなたの稲妻を放ち、誘惑を追いはらい、あなたの矢を投げてください(詩編 144・6 参照)。そうすれば、悪魔は去るでしょう。私の思いをあなたに集中させ、世間のすべてを忘れさせ、すぐに邪念を退けてください。永遠の真理よ、私を助け、空しい俗事に動かされないようにしてください。天の甘美なるお方よ、来てください。すべての不潔なものがあなたのみ前から追い払われますように。祈るときに私が、あなた以外のことを考えるとしても、どうか私をあわれみ、ゆるしてください、私は今まで、あまりに放心したまま祈ってきたことを告白しなければなりません。しばしば私は、自分が立っているところ、腰かけているところにいるので、想像に運ばれてほかの場所に行きました。私は、私の考えのあるところに行っています。私の考えは、ときどき、愛するもののあるところに行っているのです。つまり、肉の私が喜ぶもの、習慣として気に入っているものが、よく私の頭に浮かんでいるのです。

美しい季節がめぐってきました。自然界は色とりどりの花を咲かせ、蝶や小鳥が飛び交い、創造主のいつくしみをうたいあげているようです。

5月は伝統的に聖母月と呼ばれ、母マリアを祝います。特に13日「ファチマの聖母の祝日」には、聖母がファチマで三人の子供たちに託した105年前の「ファチマの三つの秘密」、当時、誰も想像しなかった最も予言的なメッセージを思い起こします。聖母は3人の子供たちに「世界平和のために犠牲と祈りをささげる」*ようにとメッセージを託されました。



ファチマの聖母

2月からロシアによるウクライナ侵略がはじまり、全世界が巻き込まれている「世界の平和」への危機が、あのときすでに予告されていたのでしょうか……。

「祈りはミサイルより強い」*

母マリアは わたしたちが困難のさなかにあるとき
闇夜を歩いているとき

神の慈しみの愛を 母としてすぐそばで示してくださいます。
救い主であるイエスの傍らには 必ず 母マリアがおられます。**



ウクライナ、ミャンマーの現状に
日々 ファチマの聖母の呼びかけが聞こえてきます。

わたしたちの日々の生活のさまざまな状況の中で
復活されたキリストに希望を託して、

伊従 信子 (いよりのぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

*ラッチンガー枢機卿著(=教皇ベネディクト16世)著

『ファチマの第の三の秘密』最終公文書より。

**『いのりの道をゆく マリー・エウジェヌ神父とともに』聖母文庫、聖母の騎士社

創造主への賛美 (53)

くのり
九里 彰

本シリーズ「創造主への賛美」もそろそろ終わりにしようとしていたところ、2月下旬、ロシアのウクライナ侵攻が始まった。この出来事は、国際政治的な問題であるが、だれもが気づいているように、ウラジミール・プーチン氏個人の問題である。戦争が起きるような状態ではなかったにもかかわらず、彼個人の世界観価値観から一方的に侵略が開始されたからである。この無意味な戦争に対する抗議は、世界各国からだけでなく、ロシアの国内からも起きている。

なぜ彼は、国境線を力で変えようとする前時代がかった、馬鹿げた戦争を引き起こしたのであろうか。

それは、ウクライナの中立化を要求するロシアの主張にもあるように、NATOに加盟する国々が増大し、ロシアの安全が脅かされるという彼の頭の中の妄想である。しかし、これが単なる妄想とも言えないところに、現実の複雑さがある。つまり、NATOという軍事同盟は、共産主義国家を仮想敵国としているからである。日本も、中国、北朝鮮、ロシアを仮想敵国として米国と安保条約を結んでいる。このような軍事同盟が存在し続ける以上、自国の安全保障は脅かされるという妄想は絶えず生じて来る。

ウクライナがNATOに加盟する前に、それを是が非でも阻止する。クリミア半島を、ウクライナ東部を、あわよくばウクライナ全土をロシアの勢力下におく。「やられるまえにやる」。先手必勝。「力の論理」である。子供時代、よく喧嘩をしていた時のように、相手をねじ伏せ、自分の思い通りにしようとしているのだと考えられる。

このような考えの根底にあるのは、「恐れ」であろう。そして、この「恐れ」が人類を支配している限り、軍隊はなくならい。軍隊がなくならなければ、自国の存在が脅かされるという妄想も消えない。だが、教皇フランシスコは、訪日前のビデオメッセージで、こう言っておられる。

紛争の正当な解決策として、核戦争の脅威による威嚇をちらつかせながら、どうして平和を提案できるでしょうか。…真の平和とは、非武装の平和以外にありえません。

非武装の平和は、恐れがある限り、ナンセンスである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (168)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

十字架の聖ヨハネはストックホルム症候群に苦しんでいた？(3)

彼を牢に閉じ込めた人々を赦すことは、ヨハネ修士のもっとも純粋な聖性の表れなのです。彼はキリストのように彼らをとがめず、赦したのです。

よりリベラルな伝記作家たちは、こう答えるかもしれません。「間違いなしにストックホルム症候群だ。何カ月も幽閉された後で、そうならないことは、ほとんど不可能だ」と。

私は彼を聖人にしたり、しなかつたりするのではなく、礼儀正しさと勇敢さが両立するように、二つのこと、すなわち聖性と症候群を一緒くたにすることはできないと考えるのです。もしかしたら、十字架のヨハネは、靈魂の観想的祈りの移行を、非常に似通った症状を呈するメランコリーあるいは他の気質と区別し、混同しないためのもっとも注意深いしるしを示してくれたのではないのでしょうか。実際、彼は両者を一緒くたにしないようにし、両者を適切に統合できるよう靈魂を助けてくれているのではないのでしょうか。似たような仕方と言えば、ヨハネ修士が、聖人であったにせよ、どれほど沈んだ状態であったかを確認することができます。というのも、1581年7月にはまだ、バエサから、(一人の姉妹にあてた手紙の中で)「こちらではあなたよりずっと見捨てられ、孤独である私のことを考えて、ご自分を慰めてください」と書いているからです。それは、「ストックホルム症候群」、つまり、自己防衛によって衰弱した人間の、非常に抑うつ的な活気のない状態の表れなのでしょう。

時の経過のなかでこの「症候群」はやわらげられ、この人の中に、聖性という掛け値なしの保釈金が残されていったのです。生涯の終わりに、ちょうどより不条理な他の迫害において、彼は、次のような言葉を残していきました。「…神がすべてのことをお定めになるのだ、ということだけをお考えなさい。そして愛のないところに愛を置きなさい。そうすれば愛を刈り取るでしょう」。

ヨハネ修士は、1591年12月14日にウベダで亡くなりました。今やあの世で、今まで以上に、「ストックホルム症候群」の症状を示しながら、微笑んでいるのでしょうか。

(P. 九里訳)

復活の主日

(ルカ24 : 1 - 12)

主のご復活おめでとうございます。今日の福音は、ルカ福音書「イエスのご復活」の場面です。少し前の場面に遡ると、イエスが葬られた日の夕方から安息日が始ったため、アリマタヤのヨセフの後について行ったガリラヤからイエスと一緒に来た婦人たちは、安息日には掟に従って休んだことが語られています。

安息日が終わると、婦人たちは明け方早くイエスの墓へ向かいます。塞いでいた石がわきに転がされ、イエスの遺体が見当たらなかったことで、途方にくれてしまいます。亡くなったイエスの体がなくなっていたのですから。

そんな折に、輝く衣を着た二人の人がそばに現われて、婦人たちに語ります。大切に受け止めましょう。イエスは生きておられる方、復活なさったのです。そのことを後に深く信じさせるため、イエスはガリラヤで前もって婦人たちに語られました。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっていると。そこで婦人たちは、イエスの言葉を思い出して変えられていきます。

墓から帰り、十一人と他の人々に一部始終を知らせた婦人たち。イエスがおられないことを自分たちの目で確かめた上で使徒たちに話したのですが、残念ながら使徒たちは、たわ言のように思われ、婦人たちを信じなかったと記されています。

婦人たちが目で確かめたのにもかかわらず、そのことが信じられなかった使徒たち。誰よりも何よりも、イエスから直接にご受難やご復活について聞いていたというのに。私たちは、主のご復活をどのように受け止めているでしょうか。

私たちは、イエスの復活を信仰持って信じ、年ごとに記念する祝いを祝いましょう。信じない者ではなく、信じる者となりましょう…。イエスは復活され、私たちとともにいて下さいます。ともにおられるだけではなく、ご聖体としてご自分を私たちのために、余すところなく今日も与えて下さいます。そのお方を信じ、そのお方に支えられながら、これからもともに歩んでゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

先月4月号10ページは「みことばのひびき 第3週『復活の主日』」の所、誤って3月号の『四旬節第3主日』を掲載しておりました事、心よりお詫び申し上げます。
ここに改めて掲載致します。

復活節 第3主日 (C)

(ヨハネ21:1-14)

ペトロをはじめ、弟子たちは夜通し漁をしましたが、残念ながら何もとれませんでした。しかし、夜が明けたころ、イエスが岸に立っており、「何か食べ物があるか」と尋ねます。彼らは、「ありません」と答えます。

私も、漁ではありませんが、魚釣りをします。何も釣れなかったとき(釣れないことの方が多いのですが)、兄弟から「今日は釣れましたか？」と聞かれるのがすごく嫌いです。無駄骨だったねと笑われるのが悔しいからです。弟子たちもきっと、徒労に終わった虚しい気持ちで「ありません」と答えたのではないのでしょうか。

そんな弟子たちに、イエスは「舟の右側に網を打ちなさい」と命じます。言われたとおりに打ってみると、あまりにもの大漁で、網を舟に引き揚げることもできなかつたといひます。岸まで寄せて陸に上げてみると、153匹もの大きな魚でいっぱいであつたといひのです。

弟子たちの勘は外れ、イエスの神的な力が勝つたのです。たしかに、魚は夜に多くとれますが、夜明けも大きなチャンスです。イエスの漁は夜明け、もしくは日中に行われます(ルカ5・4)。漁は、イエスの神的な、復活の光りの中で行われる時、大きな成果をもたらします。

弟子たちの行く漁は、人間をとる漁の象徴です。「わたしについてきなさい。人間をとる漁師にしよう」(マルコ1・17)。しかし、弟子たちはこのとき、自分のアイデアで漁をしたのです。「わたしは漁に行く」、「わたしたちも一緒に行こう」と。それも夜に。夜はイエス不在の象徴です。「わたしをお遣わしになつた方の業を、まだ日のあるうちに行わねばならない。だれも働くことのできない夜が来る」とイエスは言つています(ヨハネ9・4)。

自分のアイデアだけで、イエスの言葉に従わないでやる時、それは夜に行う無駄な骨折りとなる可能性があります。ただの漁や釣りならそれでもいいでしょう。しかし、人間をとる漁をイエスの光り無しで行うことは無謀です。魚ではなく、人間をとるのですから、イエスの言葉に従ひ、イエスの光りの中で行わなければ、決してよい成果は望めません。

福音宣教。これは、復活のイエスと共に、そのみ言葉に従つて行くことで豊かなものとなります。当時、地中海にいた魚は153種類であつたと思われていたそうです。イエスのみ言葉に従つて網を打つとき、弟子たちは、世界中のあらゆる国民をとることができるのです。宣教は神のご計画、イエスの業であり、人間はそれに協力する立場なのだと思います。イエスの復活と現存を信じ、イエスの言葉に従う、謙虚な福音宣教者となつていきましょう。
(今泉健 神父)

復活節 第4主日 (C)

(ヨハネ 10 : 27-30)

イエスはいわれた：「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。
わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。」

復活節第4主日は、「よい牧者の主日」として知られています。この福音は聖ヨハネの福音のイエスの教えからとられていて、イエス自身をよい牧者としています。この日はまた世界召命祈願の日です。毎年この主日には、群れの世話をし、この生活を通して安全に永遠の牧場に私たちを導くよい牧者としての愛すべきイエスのイメージを思い起こします。そしてまた召命のため、特に教会に奉仕への神の呼びかけにもっと応えることができるように、司祭職及び奉獻生活の召命のために祈ります。

聖ヨハネの福音の中で、イエスの声を聞き分け従う人は誰でも決してイエスと御父から引き離されることはない、はっきりイエスはいわれます。イエスは神的牧者としてのいけにえの愛を完全に表しています。イエスは私たちのためにすすんで全てをいけにえとして捧げられました。完全な方法で私たちが世話するように負わされた義務から、苦しみや、迫害、拒絶、辱めなど多くの障害を避けることはありませんでした。このことは、私たちへのイエスの愛が本当にどれほど深いかを知るように私たちに励まし、慰め、勇気づけることでしょう。イエスは牧者としての際限のない愛と指導を差し出してください、また私たちの協力も望まれます。私たちがイエスから受けているあらゆる贈りものを他の人たちと分かち合うように望まれます。

それぞれの人が、共同体の人たちに特別の贈りものを提供するように聖霊を通して神に呼ばれています。私たちは、自分の召命が何であるかをよく考えなければなりません。特別な贈りものは何でしょうか？教会の内外で、教区の生活に対してどのような貢献をしているのでしょうか？他者への配慮を任されている人は皆牧者です。私たちは自分に任されている人たちを愛し、その人たちのために祈り、危険から守ることでよい牧者になります。キリスト者として、私たちはよい牧者であるイエス・キリストに見倣うように呼ばれています。永遠の命を与えてくださるよい牧者に見倣うことができるか思い起こし、反省しましょう。

よい牧者になるというこの愛すべき義務を与えてくださる主に感謝し、神の民の世話をする役割を十分に果たせるための恵みを求めましょう。

(Sr. Paulina)

復活節 第5主日

(ヨハネ13：31-33a、34-35)

今日のみことばは、幾つかの内容に分かれています。まずはじめは最後の晩餐を終え、イエスを裏切るユダがイエスと他の弟子たちのもとから出て行った後、イエスが栄光について語られた場面です。ここで語られる「栄光」とは、もちろんイエスの受難による栄光です。イエスの受難によって、神から人の子が栄光を受ける。神が人の子に栄光をお与えになる。そして神も人の子によって栄光を受けになる。つまり人の子から神に栄光が帰せられ、その栄光の頂点が、イエスが受けられた十字架なのです。

父なる神は、私たちを愛し、ご自分の愛する独り子をこの世に遣わして下さいました。目に見えない神の「みことば」が人となられ、私たちの救いのためにその生命を捧げて下さいました。この世に来られた神の子イエスは、ご自分を捧げて父のみ心を行われ、私たちへの愛を示して下さいました。

その後イエスは「いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。」と語り、その後の弟子たちとの別れを暗示して、それから弟子たちに「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。」と言われました。互いに愛し合うことは、古くから昔から人が行ってきたこと、行われてきたことでしょう。しかしイエスは、「わたしがあなたがたを愛したように」と言われます。神であることに固執せず、神でありながら人となられ、十字架につけられ、ご自分の生命を捧げるほどに私たちを愛して下さいました。

聖書の福音書の中には、イエスが人を愛される具体的な場面が沢山語られています。悪霊を追い出し、病気や悲いを癒され、時には律法の規定では汚れる様な、病人に手で触れることまでなされ、ユダヤ人が交際しないサマリアの女に語り掛けたり、異邦人の女性の願いに応じその女性の娘を癒される等々、思い起こすと多くの箇所がありますが、その頂点が十字架上でのご死去であり、そのイエスはまことに復活されたのです。

復活節、イエスの復活を喜び祝い、神を讃え賛美しながら、神が行われた偉大な業を思い起こしましょう。イエスが人々を愛されたその姿を想い、イエスに倣い互いに愛し合いながら歩みましょう。「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」とイエスが言われた様に、愛のうちに生きることによって、イエスの弟子として愛を告げ、証ししてゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

復活節 第6主日 (C)

(ヨハネ14 : 23-29)

主の昇天や聖霊降臨の祭日が近づく中、今日の福音朗読は、最後の晩さんの席上での主の「別れの言葉」です。ここは、愛のこもった別れの精神に満ちています。主がこれから立ち去ろうとする場面ですが、弟子たちには平和と聖霊が降る約束が与えられます。

「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む」。キリストの言葉に忠実であれば、父と子と聖霊が私たちの内に住んでくれます。こうして三位一体が住む条件は、イエスの言葉を守ることでイエスへの愛を表すことだとイエスは教えています。イエスは、もはや物理的には彼らと一緒にいないものの、聖霊を通して一緒にとどまり続けると確証します。聖霊は、彼らを教え続け、また、イエスが既に教えてくれたことを理解してこれを生かすことを教えてくれます。聖霊は、私たちがイエスによる啓示をもっと理解できるようにしてくれるのです。

イエスは、自分に従う人たちに対し、彼らの幸せのために愛、聖霊、平和の賜物を与えてくれます。聖霊の賜物と実りとカリスマ（特に愛と平和）で満たしてくれるのです。神の愛が私たちの中に住み、私たちもその中に住むならば平和があります。この平和はイエスしか与えられません。ここで私たちは、以下について振り返ってみましょう。私たちが何かを識別するとき、信仰を実践するとき、そしてキリストとの関係において、聖霊を中心に据えているだろうか？私の人生のともしびと光として神をお迎えしているだろうか？神のみことばを私の日常生活の土台としているだろうか？と。

復活した主が私たちの心に平和を注ぎ、私たちが世界における神の平和の道具としてくださるよう日々祈りましょう。私たちが聖霊のインスピレーションにいつも聞き従うことができますように。

(Sr. Paulina)

主の昇天

(ルカ 24 : 46 - 53)

天に上げられる前に、イエスはこのように言われました。

「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」

イエスの受難、死、そして、死者の中からの復活は、罪に支配された世に対する勝利を宣言する出来事です。イエスは十字架上で、世を支配する罪の力に打ち勝ち、完全な自由を得、平和に満ちた終わりのない生命に復活されたのです。アダムの子以来、落ちてしまっていた世界に、永遠の生命への救いの扉を開いてくださったのです。それは、私たち皆を「罪の赦しを得させる悔い改め」によって解放し、イエスと同じように神の子の生命にあずからせるためです。

そのとき、イエスはまたこのようにも言われました。

「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

イエスは、悔い改めて罪から解放された人々に、高い所からの力を与えようとしておられます。それは、聖霊という神の愛、神の知恵です。落ちてしまった世界で苦しむ人々に、神の愛、神の知恵をもたらし、この世を墮落から救ってくださったのです。

大規模な侵略戦争など、今も理不尽なことが猛威を振るうこの世界には、強い悪の力が働いていることを知らなければなりません。これは、人間がその誘惑に負けてしまった結果なのです。

しかし、イエスは勝利され、天に昇られ、救いの手を差し伸べてくださいました。多くの方が悔い改め、罪の赦しを受け、マリア様のように「いと高き方の力に包まれて」(ルカ 1・35)、この世を真の平和に向けて聖化していくことを願ってやみません。

(今泉健 神父)

いのちの言葉 5月

あなたがたに新しい掟を与える：
互いに愛し合いなさい。

(ヨハネ 13. 34)

最後の晩餐の瞬間です。イエスは、少し前に弟子たちの足を洗い、いま彼らと食卓についています。そのわずか数時間後、イエスは逮捕され、死刑を宣告され、十字架につけられることとなります。残された最期のひととき、その時、最も大切なことが語られます：イエスは、そこで「遺言」を残されました。

ヨハネ福音書には、最後の晩餐におけるご聖体の制定の記述はありません。その代わりに、イエスが弟子たちの足を洗う場面が記されています。これは、イエスの「新しい掟」を理解する上で、大きな光となるものです。イエスはまず、最初に「行い」、それから「教え」られます。そのためイエスの言葉には威厳があります。

隣人への愛の掟は、旧約聖書の中にすでに記されていました。「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」(レビ 19:18)と。イエスはこの戒めのまったく新たな面、「相互性」に光を当てました。事実、初期のキリスト者共同体をみると、共同体は「相互愛」から生まれ、その特徴は「相互愛」にありました。

この「相互愛」の根源は、神の命そのものに由来します。神の御子イエスによって、人間が参与できるようになった「三位一体のいのちの営み」にその根源があります。これについて、キアラ・ルービックは、ひとつのイメージを用いて分かりやすく説明しています：「イエスは、地上に来られたとき、私たちのように無からではなく、天国から来られました。それは、ちょうど遠い国に移住してきた人のようです：その人は新しい環境に慣れようとしますが、同時に、自分の国の習慣をそこにもたらし、しばしば母国語を話し続けたりするものです。同じようにイエスも地上での生活に順応されましたが、神であることから、『三位一体の生活』、つまり、『相互愛』をこの地上にもたらされました」と。

あなたがたに新しい掟を与える：互いに愛し合いなさい。

ここに、イエスのメッセージの核心があります。それは、「相互愛」を生き生きと生きていた初期のキリスト者共同体を思い起こさせますが、現代にあっても「相互愛」は、すべてのキリスト者のグループ・共同体を他とはっきり区別する特徴となりえます。相互愛があるところでは、人は自

分の存在の意味を見出し、痛みや苦しみの時にあっても前進する力をもらい、人生の中で避けられない困難に出会っても支えられ、喜びを味わいます。

私たちは日々、パンデミック、拡散する過激主義、貧困、紛争など、多くの挑戦に直面しています。でも一瞬、もし私たちが、今月のみ言葉を日常生活の中で実践するなら何が起こるだろうか？と想像してみましょう。きっと、新たな展望が目の前に開かれ、人類の上にあるご計画が私たちの目に明らかにされ、希望を見出すのではないのでしょうか。私たちの内で目覚めるこの「いのち」をいったい誰が妨害できるのでしょうか？ 私たちの周りに、そして、世界中に、この兄弟愛の関係をもたらすのをいったい誰が阻止できるのでしょうか？

あなたがたに新しい旋を与える：互いに愛し合いなさい。

大学受験を目指す受刑者を支援する若いボランティア、マルタの体験です。「初めて刑務所に足を踏み入れたとき、恐怖と脆(もろ)さを内に抱える若者たちに出会いました。私は、まず教師として彼らとの関係づくりに努め、また一人ひとりを尊重し、彼らに耳を傾けながら友情を育むように努めました。私はすぐに、自分が受刑者たちを助けているだけではなく、私も彼らから助けられていることに気づきました。あるとき、ひとりの生徒の勉強をみていた時、私の愛する身内の一人が亡くなりました。そして時を同じくして、その生徒の有罪判決が確定しました。私も生徒も、最悪な状況下に置かれました。授業中、私は、苦しみに耐える彼を目にして心が痛みましたが、彼は苦しみを私に打ち明けてくれました。共に痛みを担うことで、私も彼も一歩前に進むことができました。試験が終わるとすぐ、彼は私に感謝を言いに来て、私の助け無しには受験もできなかったと言ってくれました。その時、私の家族の命は失われたけれど、もうひとつの命が救われたとつよく感じました。私にとって、相互愛によって本物の友情と尊敬が生まれるという体験でした。」²

あなたがたに新しい旋を与える：互いに愛し合いなさい。

レティツィア・マグリ

1. キアラ・ルービック、「神の透明さであるマリア」、チッタノーバ誌、2003年ローマ、pp.72-73

2. 全文および他の体験談は下記（各国語）：

Cf. <http://www.unitedworldproject.org/workshop/unesperienza-al-di-la-delle-sbarr-e-relazioni-di-cura-reciproca/>

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。

<< Communications (時事通信) >>

キーウ発 2022年3月24日



跣足カルメル修道会ウクライナ救済へ、
最初の一か月間の
人道支援総まとめ
2022年2月24日～3月24日

ウクライナの跣足カルメル修道会として、私は“ウクライナ紛争の犠牲者のための支援”に応じてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。皆様の寛大なお心は私たちの人道支援の翼を確実に広げる助けとなり、ギリシャ神話の目的に到達できなかったイカサの翼のようではなく、跣足カルメル修道会はこの支援活動目標を100%達成して参ります。支援活動は、ウクライナのベルディチュウ、キーウとハルキウの3地点での修道院、支援を要する人々や施設で具体的に行われています。私たちは外国から35トンの様々な支援物資をこれらの地に送り込んでいます。

I. これまでの活動経緯

このプロジェクトにより、初めの1ヶ月間は次の3つの規模で支援しました。

1. 医薬品

私たちの支援は、紛争の当初から不足していた医薬品に焦点を当てました。まず薬局前に長い列で並ぶ人々のため、ベルディチュウ、キーウとハルキウ市中の病院や軍の病院のためです。はじめに簡易医薬品、鎮痛剤、風邪薬などを持ち込み、また専門治療医が即刻必要な高価な専門薬や処方箋薬も渡しました。医療品はスペインのムルシア、バレンシア、アビラ、そしてフランスやポーランドの各地から送られてきました。

2. ウクライナからポーランドへの避難民支援

紛争で包囲された地域からのポーランドへの避難のために、また5台のバスと2台のミニバス購入に多くのお金と労力が投与されました。避難民送付経路は多く場合、ウクライナのベルディチュウからポーランドのクラコフ間で、総勢409人の子供を含む798人を送り出しました。

その中の貧しい人々や大家族のためのポーランドでの1週間の生活費も支援しました。このポーランドへの避難のためには、カルメル会修道院の財源からウクライナ通貨159、ユーロで約34,000が支出されました。

3. ウクライナに残留する被災者への支援

私たちは支援募金と人道支援網を組織し、スペイン、フランス、ポーランド各地から支援を募りました。受け取った支援物資や購入品は、ポーランドの南部ウクライナ国境近くのプシェムイシルのカルメル会修道院に集められ、そこからウク

ライナのカルメル会ベルディチュウの修道院まで小型トラックやヨーロッパ大陸国際道路大型トラック輸送で送られてきました。私たちのポーランドのカルメル会の兄弟修道士たちのこの貴重な支援は強調されるべきで、特にプシェムイシルのカルメル会修道院の働きは大きかったです。

衣料品以外の支援物資

- ・二歳以下の幼児用のオムツ、離乳食、粉ミルク。
- ・小麦粉で作ったセモリナ、パスタや、缶詰、ジャム、コーヒー、紅茶などの食品。
- ・石鹸、洗剤、液体洗剤など化学製品。
- ・発電機。高価であるが病院、シェルター、軍の駐屯地では必需品。
- ・寝袋、毛布、シェルターや兵士の必需品用具の二股矢じり。
- ・兵士用長靴、トレイナー、男性用長ズボン30セット。

そして人道支援の他に、被災者たちのために司牧活動奉仕として、ミサ、告白、病者への訪問、手をかざす祝福などの秘跡の授与を行っており、これらは戦時中の生活に大変重要視されています。キーウでは攻撃や爆撃下にも関わらず、私たち共同体の信徒たちは勇気を奮って教会の日曜日の主日ミサに約60人がきます。ベルディチュウの修道院修国立聖堂で修道士たちは毎晩カルメルのカプラリオの聖母のイコンの前で祈ります。ウクライナに残留する人々や紛争前にウクライナから国外に避難した何千人もの人々がインターネットとラジオを通して、この祈りに参加しています。また無料メッセージングアプリTelegramを通じてチャンネル“闘いの祈り—この1分間を神のために”を創設しました。その目的は、宗派や教団に関わらずウクライナの信者たちに1日に2度、この紛争に関する其々の思いを託して祈り、黙想するよう招くものです。ウクライナのベルディチュウ近郊のグウォズダワにある“カルメル隠遁者”の修道士たちは、週に6日間9時から11時まで、平和のためのご聖体賛美式を捧げています。このように私たちは多くの司牧活動を執り行っており、全部は数え切れないほど広がっています。

II. 戦争下での次月計画

皆様への感謝の気持ちを限りなく持ちながら、さらにここで勇気を出して、“どうぞ支援を続けてください”と書かせていただきます。私たちはウクライナからの全ての情報により、

依然として紛争の終わりについて話すには早すぎる状況を実感しています。支援参加者の気運は徐々に弱まりつつあり、被災者たちも紛争下の生活にやや慣れてきたかもしれないが、ウクライナで支援が必要な被災者たちの家族は今も大勢います。2ヶ月目の初めに、ウクライナの人々や施設からの必需品は次の通りです。

- 1) 医薬品：出産用品、止血帯、止血剤、バンドエイド、絆創膏、鎮痛剤、甲状腺治療薬レボクロキシン・カイロキシン、大型包帯、鎮静剤、下剤、腸感染治療薬、鼻炎スプレー、解熱剤、抗ウイルス剤、ビタミン剤。
- 2) 食料品：レバー・肉詰め、魚缶詰、コンビーフ、パスタ、砂糖、塩、小麦粉、紅茶、コーヒー、粉ミルク、食用油、ジュース、炭酸飲料、など。

- 3) 二歳以下の幼児用品：オムツ、離乳食、粉ミルク、など。
- 4) 化学製品：石鹸、シャンプー、生理用品、歯磨き粉、など。
- 5) 技術装置品：発電機、電池、懐中電灯、充電器、など。
- 6) 兵士用衣服：Tシャツ、防寒着、靴下、軍隊用・スポーツ用の靴、寝袋。

これら物資のご支援は大変有難いです。これまでのようにお買いいただいた物資は、ベルディチュウの跣足カルメル修道会宛て、Karmelici Bosi, ul. Karmelicka 1, 37-700 Przemyśl, Poland、にお送りくださるようお願いいたします。現金でのご支援は、私たちカルメル会の銀行振込口座をお願い致します。現地での支援物資購入やウクライナへの輸送のために充当させていただきます。

神の祝福が皆様とご支援の上にありますように。

跣足カルメル修道会ウクライナ管区
総長代理 ヨセフ クハルチク神父、OCD

追伸：銀行振込口座の情報は通貨の違いにより、次の通りです。

ウクライナ通貨PLNでの振込

銀行名：Santander Bank Polska S.A.
銀行所在地住所：al. Jana Pawła II, 00-854 Warszawa, Polska
銀行口座名義人：KLASZTOR KARMELITÓW BOSYCH W BERDYCZOWIE
銀行口座名義人の所在地住所：
銀行口座番号：PL46150016341216300373770000
銀行S W I F Tコード：WBKPPLPP
送金目的注釈：ウクライナ紛争被災者のために

ユーロ通貨での振り込み

銀行名：Santander Bank Polska S.A.
銀行所在地住所：al. Jana Pawła II, 00-854 Warszawa, Polska
銀行口座名義人：KLASZTOR KARMELITÓW BOSYCH W BERDYCZOWIE
銀行口座名義人の所在地住所：Karmelicka 1, 37-700 Przemyśl, Polska
銀行口座番号：PL29150016341216300452680000
銀行S W I F Tコード：WBKPPLPP
送金目的注釈：ウクライナ紛争被災者のために

USドル通貨での振り込み

銀行名：Santander Bank Polska S.A.
銀行所在地住所：al. Jana Pawła II, 00-854 Warszawa, Polska
銀行口座名義人：KLASZTOR KARMELITÓW BOSYCH W BERDYCZOWIE
銀行口座名義人の所在地住所：Karmelicka 1, 37-700 Przemyśl, Polska
銀行口座番号：PL27150016341216300453690000
銀行S W I F Tコード：WBKPPLPP
送金目的注釈：ウクライナ紛争被災者のために

(小宮山延子 訳)

For payments in PLN:

Nazwa banku: Santander Bank Polska S.A.

Adres banku: al. Jana Pawła II, 00-854 Warszawa, Polska

Posiadacz: KLASZTOR KARMELITOW BOSYCH W BERDYCZOWIE

Adres posiadacza: Karmelicka 1, 37-700 Przemyśl, Polska

IBAN: **PL46150016341216300373770000**

Kod SWIFT banku: WBKPPLPP

Z dopiskiem „*Dla dotkniętych wojną na Ukrainie*”.

For payments in EUR:

Name of the Bank: Santander Bank Polska S.A.

Address of the Bank: al. Jana Pawła II, 00-854 Warszawa, Polska

Name of Account Holder: KLASZTOR KARMELITOW BOSYCH W BERDYCZOWIE

Address of Account Holder: Karmelicka 1, 37-700 Przemyśl, Polska

Account Number (IBAN): **PL29150016341216300452680000**

SWIFT Code of the Bank: WBKPPLPP

With the annotation "*For those affected by the war in Ukraine*"

For payments in USD:

Name of the Bank: Santander Bank Polska S.A.

Address of the Bank: al. Jana Pawła II, 00-854 Warszawa, Polska

Name of Account Holder: KLASZTOR KARMELITÓW BOSYCH W BERDYCZOWIE

Address of Account Holder: Karmelicka 1, 37-700 Przemyśl, Polska

Account Number (IBAN): **PL27150016341216300453690000**

SWIFT Code of the Bank: WBKPPLPP

With the annotation "*For those affected by the war in Ukraine*"



2022年4月18日付けのウクライナのカルメル在世会員



ウクライナ訪問時のカルメル会総長ミグエル神父（左）と、ウクライナ総長代理区在世会担当司祭ラミロ神父の写真

糸巻き棒からペンへ(75)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

「私がお願いしていることは、考えることでも多くの概念を知ることでも、知性によって微妙で立派な考察をすることでもありません。ただ彼（訳注：キリスト）を見ることだけなのです。…うれしい時には、復活された主をごらんください。…悲しい時には、ゲッセマネの園へ行かれる主を、…あるいはむち打ちの柱に縛られた主を、…あるいは十字架を担う主をごらんください。そして主はあのととても美しい御目をもってあなたをながめ、あなたの苦しみを慰めるために御自分の苦しみを忘れてしまわれることでしょう。…たびたび主とお話しください。他の人たちはよく話せるなら、どうして主と話すための言葉が出てこないのでしょうか」（『完徳の道』26,3-9）。実際、すでに思い出す機会があったように、テレジアは、「ここでは多く考えるのではなく、多く愛することが大切なのです。ですからさらに愛するように促してくれることを、なすべきです」（『靈魂の城』4 M1,7）。

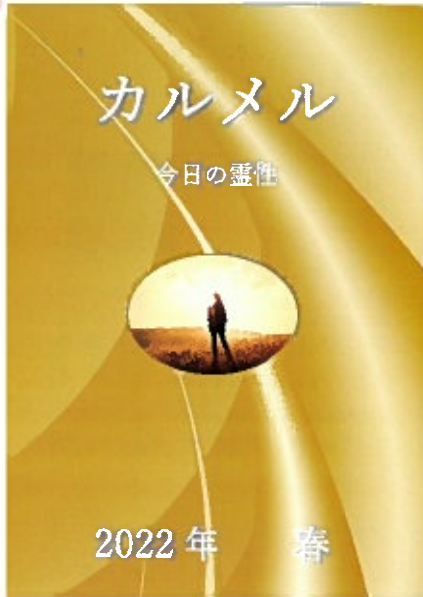
観想の実り

このような愛のこもった祈り（聖女は潜心の祈りと呼んでいます）を実践し始めて以来、神秘的な恵み、すなわち内的な言葉、幻視、脱魂、心に愛の傷などが生じました。推論的で、理性の力を使ってなされる黙想とは異なり、この祈りは直観的であり、無償の恵みとして受け取られました。初めのうち彼女は驚きました。起こったことを説明するためにふさわしい言葉を見つけることができませんでした。それを理解するための光を求めて、書き記し始めました。最初の助言者たちは、彼女を理解できませんでした。彼らは、理解可能な「説明」を求めましたが、テレジアは、どのようにこの出会いが彼女を変えたかという「証し」を、彼らに示すことしかできませんでした。

(P.九里訳)



カルメル誌 新刊案内



2021年 春号 No.384

- | | |
|--------------------------|------|
| エディット・シュタインの言葉 抄(一) | 釘宮明美 |
| 道の霊性(続)第一回 | |
| キリストの平和と「抑止論」の平和 | 田畑邦治 |
| アピラの聖テレジアの霊的同伴 | 松田浩一 |
| 日々の出来事の中で 神の霊は導 | |
| —福者マリー・ユージェヌ神父の司祭職と | |
| カルメル入会100周年にあたって | 伊従信子 |
| 風に吹かれて再び(1)—小春日和 | 原 造 |
| あの人が死んだら私には分かるはず | 森 みさ |
| キリストの説かれた 幸いなる道(5) | 九里 彰 |
| 霊的研究会講義録(15)—聖書・祈り・愛について | |
| | 奥村一郎 |



2021年 特集号

「向こう岸に渡ろう」

- | | |
|------------------------|--------------|
| | —パンデミック後の選択— |
| 向こう岸に渡ろう | |
| —四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し | 中川博道 |
| 人類は新たに生まれねばならない | 九里 彰 |
| 神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて… | |
| —フランスコ教皇さまの連続講話 | |
| 「この世界をいやす」についての考察 | 松田浩一 |
| 同じ舟に乗る者たちとして | |
| —『つながり』の霊性を求めて | 若松英輔 |
| 何も咲かない寒い日—今を問う | 大瀬高司 |

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Copyright: Kashiwa
小野崎良子 著

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し
信じて生きるキリスト者の典型・
模範」です(教会憲章 53 番)。
ニコラオ師はロザリオを通して、
日々私たちが、イエスの神祕をマ
リアとともに生きる道をわかりや
すく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500 円+税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットやAIが発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933年スペイン、バレンシア生まれ。1950年跣足カルメル修道会入会。

1957年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018年10月27日マドリッドにて帰天。享年85歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990年カルメル会入会。1997年司祭叙階。1999~2002年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりでである」(「教会憲章」39)。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 福音書(1)
 - 第2章 福音書(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義者と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対証
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 倫理規範とアジア
 - 第9章 神秘主義と感性的なオカルト
 - 第10章 英知と(愛)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 研究
 - 第14章 (念のうちにある)
 - 第15章 花蓮と花冠
 - 第16章 一歌
 - 第17章 愛知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会運動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26歳で来日。
32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を専門とする。講義から成る「東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及」は、パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダラウ・ラマ、永井隆、蓮池潤作との出会いを通じて、次々と著作を発表。現代に開いた灵性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版
好評発売中!**



マリー=ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール/J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	
	日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	
	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

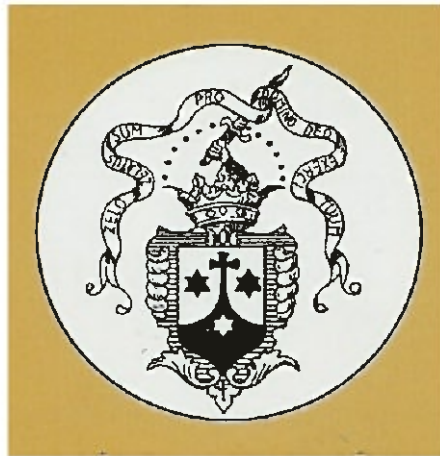
1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2022年～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(土)～25日(日) 朝食 <講話なし、夕食なし>

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) 大瀬高史 神父

6月 4日～ 5日

11月 5日～ 6日

7月16日～17日

2023年

9月 3日～ 4日

2月25日～26日

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

5月18日 6月15日 7月20日

9月21日 10月26日 11月16日 12月21日

2023年 1月18日 2月15日 3月15日

- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時～16時 昼食付) 松田浩一神父

5月12日 6月2日 7月7日 9月1日

10月13日 11月3日 12月8日

2023年 1月12日 2月2日 3月2日

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

5月21日(土)～22日(日)

- ・一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

5月14日～15日

7月23日～24日

2023年

9月17日～18日

1月14日～15日

11月19日～20日

3月18日～19日

- ・ 奉献生活者のための黙想会 (初日 17時～最終日朝食) カルメル会士
 8月 1日(月)～10日(水)
 8月16日(火)～25日(木)
 12月27日(火)～2023年1月 5日(木)
- ・ 召命黙想会(男女)40歳まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
 11月11日(金)～13日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)
 カルメル会士
 7月 9日(土)～10日(日) 2023年
 10月29日(土)～30日(日) 2月 4日(土)～ 5日(日)
- ・ 特別黙想会(初日20時～最終日16時)Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
 5月27日(金)～29日(日)
 11月25日(金)～27日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>



カルメル青年黙想会

キリストへのあこがれ



- 日時 : 2022年5月21日(土)16時～22日(日)16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 青年男女(16歳～35歳まで)
定員 : 9名
費用 : 一般 5,000円 学生 3,000円
締切 : 2022年5月14日(土)
指導 : カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

*毎月第三水曜日（8月はお休み）

*10時～16時 3,500円（昼食付）

<2022年度開催予定日（2022年4月～2023年3月）>

2022年	4月20日	5月18日	6月15日	7月20日
	9月21日	10月26日	11月16日	12月21日
		(*第4週)		
2023年	1月18日	2月15日	3月15日	

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。



今泉 健神父



松田浩一神父



ジョー神父

当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 4月2日（土）～3日（日） 16時～翌日16時

7月 9日（日）～10（日） //

10月29日（土）～30日（日） //

2023年 2月 4日（土）～5日（日） //

会費：¥5,000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

5/19 6/2 7/7 9/1 10/13 11/3 12/8

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



宇治カルメル会 黙想会案内 (2022 年度～)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)

5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

6/4～5 9/17～19 (2泊) 10/29～30

2023年

1/14～15 2/18～19

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

5/28 6/25 10/8 11/19

2023年

1/21 2/11

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

5/18 6/15 7/13 9/21 10/26 11/23

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

5/19 6/2 7/7 9/1 10/13 11/3 12/8

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

4/29 (金) 夕食～5/6 (金) 朝食

参加期間は、全日通しでもどの曜日からでも自由です。

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

幼きテレジア 10/1 (土)～2 (日)

十字架の聖ヨハネ 12/17 (土)～18 (日)

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

7/23 (土)～8/1 (月) 中川博道神父

8/4 (木)～13 (土) 松田浩一神父

9/5 (月)～14 (水) 中川博道神父

10/13 (木)～22 (土) 中川博道神父

12/27 (火)～1/5 (木) 中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】

*＜聖週間を祈る＞

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
聖木曜日から復活祭まで通してどの曜日からでも参加可。(講話なし 食事つき)

*＜クリスマス＞

12/24～25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)


—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、
コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は
早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

キリスト教放送局 **FEBBC** 2021.10~2022.3

2021年秋冬 AMラジオ放送 毎夜9:30~ (全国放送)

番組案内

インターネット放送

www.febcjp.com (毎日更新)

日 夜9:30~

全地よ主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1] 日キ教会 高知旭教会
- [第2] 日基教団 石動教会
- [第3] ホーリス教団 東京中央教会
- [第4] 日基教団 小岩教会
- [第5] 日基教団 久万教会

[第1、2、5] 夜10:27~

神からのメッセージ

グレゴリオ聖歌 橋本周子
聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所長

[第3、4] 夜10:27~

聖歌を味わう

[10~12月] テゼ
[21.1~3月] 正教会

月~金 夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBBCメイン・パーソナリティー 吉崎恵子

夜9:48~

聴く信仰

「いのち」をいただく 御言葉黙想 山内十束
御言葉黙想の家 司祭

新

夜9:47~

ダビデのひこばえの到来

竹森満佐一 日基教団元教師

夜9:47~

嘆きに応える 神の御言

金田聖治 日キ教会 上田教会教師

水



Session イエスのTuneに合わせて

早矢仕宗伯 INCAMイエスの風 教師
塩谷達也 コスヘル
長倉崇宣 シンガー

木

イエスとの対話の旅 -現代霊性神学講座-

[第1] 夜9:37~
中川博道 カトリック・カマル会会宇治修道院司祭

金

夜9:30~
ボン・ヘアア一著 『共に生きる生活』
を読む (再)
江藤直純 ルーテル学院 大学前学長
吉崎恵子

夜9:53~
Kishikoのひとりじゃないから

[第1~3] 夜10:04~
コーヒー ブレイク・インタビュー

[第4~5] 夜10:04~
交わりのことば

新 夜10:31~
聖歌を味わう [10~12月]
テゼ・和解のうた 植松功

[21.1~3月] 正教会 マリア松島純子

新

主よ、絶望を担うキリストよ

関野和寛 日本福音ルーテル教会教師、チャプレン

夜10:14~

夜10:11~

五十嵐ジュンの Contemporary Christian Music

夜10:28~

ふらっとトーク

中川信一 長倉崇宣

夜10:28~

聖書を開こう

山下正雄 RCJメディア ミニストリー代表

[第3~4] 夜10:20~
Meguro CCM insight!



諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2022年 — 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月13日 「御旨を行う」（詩編40：9）
2月10日 「私が父の家にいるのは」（ルカ2：49）
3月10日 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ3：21）
4月 7日* 「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
御心なら、この杯を」（ルカ22：42）
5月12日 「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ11：25）
6月 9日 「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
（ルカ6：12）
7月14日 「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
（ヨハネ11：41）
8月 休み
9月 8日 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ23：46）
10月13日 「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ22：19）
11月10日 「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ17：1）
12月 8日 「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ6：9）



予約は前日の16：00まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
リピーターの会 @那須	4/29(金・祝) 9:00- 5/1(日)14:00 (前泊可)	同上	ペタニア修道女会ヨゼフ 山の家 (栃木県那須郡那須町)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
ダイアリー	5/2(月)17:30- 5/6(金)16:00	同上	上石神井無原罪聖母修 道院(練馬区)	
名古屋入門 A	5/15(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暎子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.
入門 B	5/22(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※
沖縄 フォローアップ	6/3(金)9:00- 6/4(土)18:00 ※通いも可能です	同上	伊江島教会 (沖縄県国頭郡伊江村)	佐藤芳樹 080-3188-6573 jonah3295@gmail.com
沖縄 I & アドバンス	6/5(木)9:00- 6/6(月)18:00 ※通いも可能です	同上	同上	
入門 C	6/19(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会リヒト宣教会 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※
名古屋入門 B	6/26(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暎子
フォローアップ	7/3(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ修道 女会九段修道院(九段北)	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あしがき . . . つぶやき . . .

私たちの聖堂には、現在、ファチマから取り寄せた美しいファチマのマリア様のご像が安置されています。そして、ロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉獻された教皇フランシスコのご意向に合わせて祈っています。

教皇フランシスコは、3月25日「神のお告げの祭日」の夕方、長時間をかけて共同回心式をとり行われ、式の終わりに、「ロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉獻する祈り」をおささげになりました。オンラインでライブ配信された当日の式に私も参加しながら、まず私たち自身が回心することからしか始まらない、この世界の問題への取り組みの姿勢をあらためて意識させられるひと時でした。

1917年5月13日以来、ファチマにおいて三人の子供たちに現れたマリア様からのメッセージは、一貫してわたしたちが回心することへの促しでした。教皇は説教で、「ゆるしの秘跡にあずかることは、わたしたちから神への歩みよりではなく、わたしたちを包み、驚きをもたらし、感動させる、神からわたしたちに対する抱擁である」と強調されていました。

私たちは、自分自身が存在の根底において愛されている者・赦されている者の自覚を失うとき、根源的な不安に包まれ、「自分で自分を救う」（参照：ルカ23・33-43）という、「自己充足の幻想の誘惑」に容易に捉えられてしまいます。あらゆる争いの根にある誘惑の現実であるように思います。

ウクライナでの侵略戦争、ミャンマーでの理不尽な軍事独裁などの現実を前にしながら、私たちすべてが、聖母が促し続ける回心の道、神から愛されている者としての現実に立ち帰れますように、聖母の月を、ロザリオを握りしめながら過ごしたいと思っております。

(Fr. 中川博道 o. c. d.)

